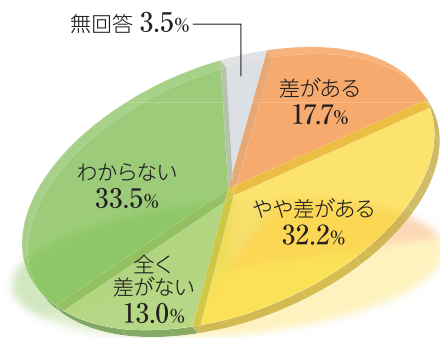


5. 女性の昇進や大学運営への参画について

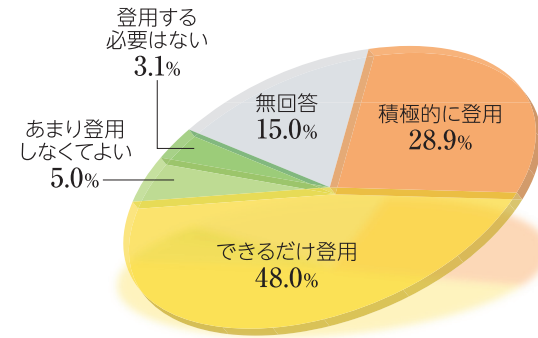
Q.女性の昇進について男女差があるかと思いませんか。

昇進の男女差については約5割が「差がある」「やや差がある」と回答している。男女では女性の方が男性に比べ1割ほど差があるとの回答が多く、職種別では教員より事務系職員、医療系職員のほうが差があるとする回答がやや多かった。



Q.女性の役員（理事・副学長）登用は必要ですか。

全体の7割以上が肯定的な回答（「積極的に登用したほうがよい」「できるだけ登用したほうがよい」）であった。男女、職種による差はほとんどなかった。



6. 男女共同参画推進に関する意見・要望など

男女共同参画推進活動

- まだ道半ばであるが、男女共同参画を推進して一人でも多くの女性が大学で働けるようにみんなでがんばりましょう。人数が多くなれば発言する機会も増えてくると思います。
- 教員に対してだけでなく職員（特に女性職員・非常勤職員）にとっても利用しやすい支援をお願いします。

意識改革

- 男女共同参画の環境づくりの必要性はわかるが、女性自体の意識改革がなされているか疑問がある。
- 女性側への意識改革のための働きかけより、男性側にもっと伝えないと変わらないと思う。イベントを行っても男性教員の出席はほとんどない。
- 男女共同参画に対して意識が低いと思います。部署で細かく調整するなどしても良いかと思えます。上司によって休みの取りやすさがあると思えます。

育児・介護支援

- 病児保育・病後児保育の実施。
- 松本以外のキャンパスにも、子供を日常的に預ける場所と機会を与えてほしい。
- 職場復帰のための支援。

女性の採用・登用

- 男女共同参画というと、逆差別になりがちなので、そうならないように推進してってください。
- 女性限定の公募は反対です。
- 有能な女性を登用して活躍していただきたい。トップが変わらなければ何も変わりません。
- 数値目標を持って積極的に行動していただきたい。

裾野拡大

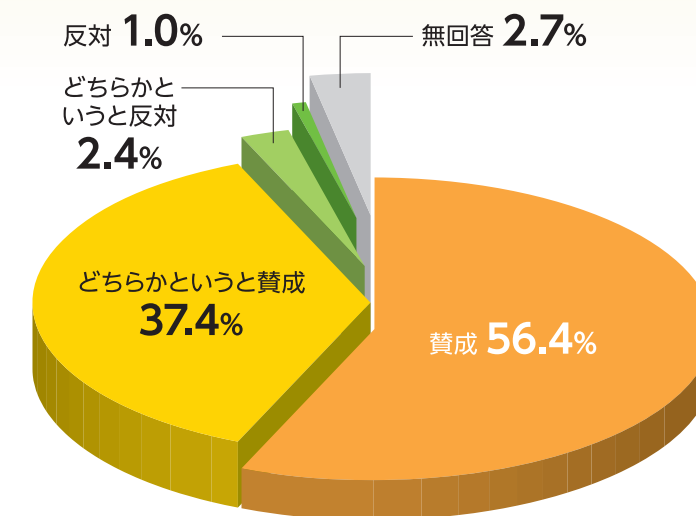
- 女性教員が少ないのは女性研究者、さらには（理系に）女子学生が少ないことが根本的な問題としてあります。長期的に見て多くの女子学生に理系学部に入學し、研究者として育ってもらう必要があります。入試あるいは進学指導のあり方から考える必要があると思えます。

男女共同参画

平成25年度

信州大学における男女共同参画に関するアンケート調査結果概要

Q.本学において、今後とも男女共同参画を推進することに賛成ですか。

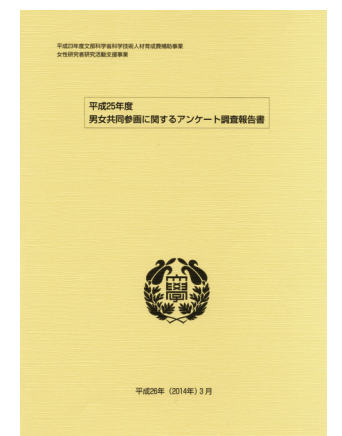


信州大学は、平成23年9月に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、学長を委員長とする男女共同参画推進委員会を設置し、併せて女性研究者支援室を設置しました。平成25年度までの約3年間において、女性研究者の比率の向上など、女性研究者を中心に研究とライフイベント（出産・子育て・介護等）の両立のための環境整備などに取組んでまいりました。

この取組により、少しずつではあるものの着実に女性研究者が増加し、男女共同参画に対する学内の雰囲気も確実に変化しました。これまでの活動の成果と課題を明らかにし、次年度の活動につなげるために、平成25年11月に信州大学の常勤・非常勤教職員を対象として、男女共同参画推進、女性研究者支援事業の認識度や必要な支援などについて把握することを目的にアンケート調査を実施しました。調査結果は「男女共同参画に関する調査報告書」として平成26年3月に発行しました。このリーフレットは、アンケート結果の一部を抜粋し、ご紹介します。

報告書は、信州大学男女共同参画推進室ウェブサイトよりダウンロードが可能です。ご希望の方は報告書を差し上げますので、男女共同参画推進室（旧女性研究者支援室）までご連絡ください。

アンケート調査の対象者：配布数3,815のうち有効回収は1,749。（回収率45.9%）
性別、職種別（教員・事務系・医療系）および雇用別（常勤・非常勤）で分類しました。



「男女共同参画に関するアンケート調査報告書」A4判 48頁



お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進室 (旧女性研究者支援室 SuFRe)

松本分室 (総務部人事課内)
〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL 0263-37-2167
FAX 0263-37-3314
内線 811-2127

長野分室 (教育学部内)
〒380-8544
長野市西長野6-口
TEL/FAX 026-238-4048
内線 831-4048

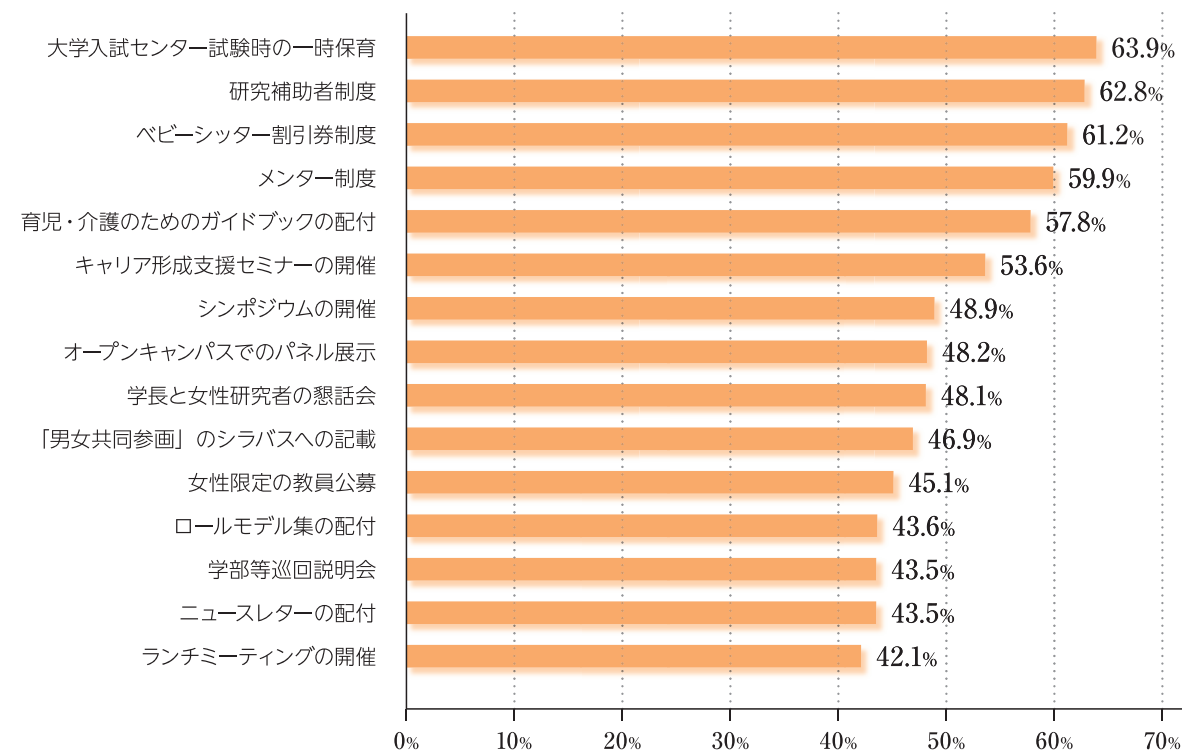
開室時間
9:00~17:00 (月~金)

E-mail sufre@shinshu-u.ac.jp
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/sufre/>

信州大学 スフレ 検索

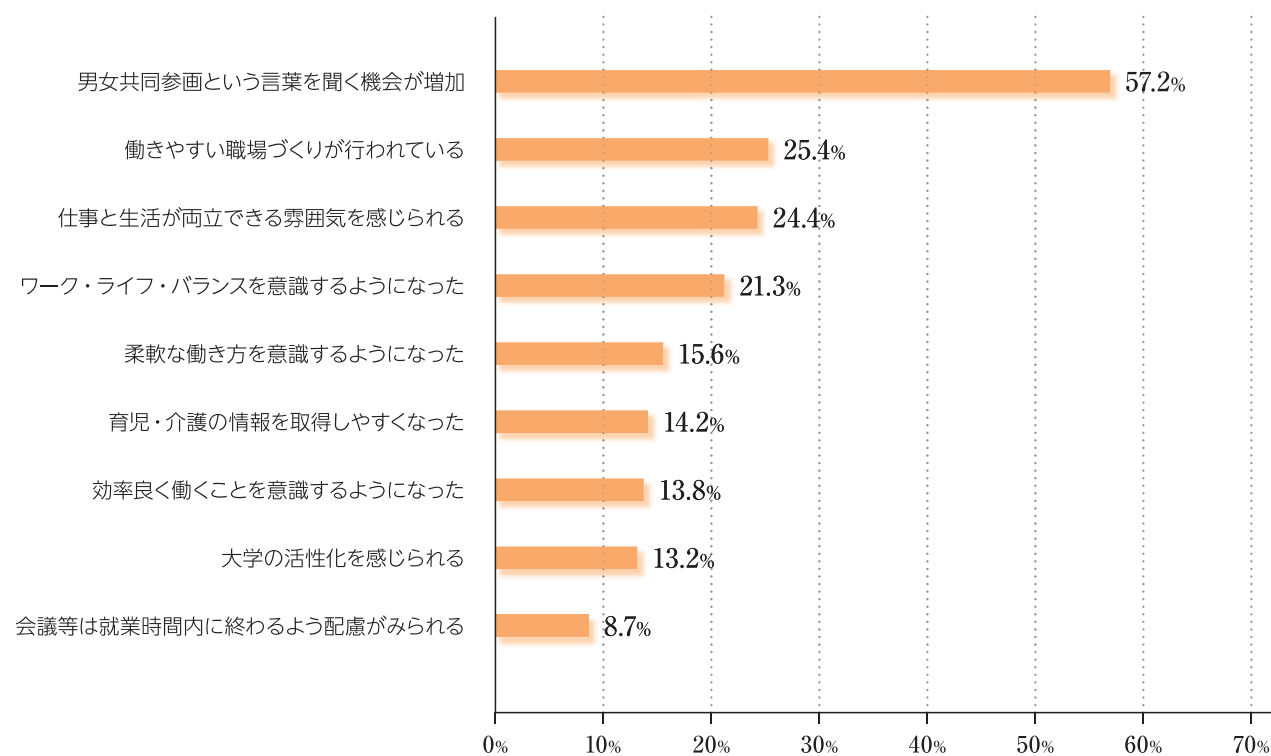
1. 男女共同参画推進の取組の継続について

Q.平成23年度から男女共同参画推進及び女性研究者研究活動支援事業の一環として様々な取組を行ってきましたが、その中で継続を希望するものは何ですか。
15項目の継続希望は図のとおりである。



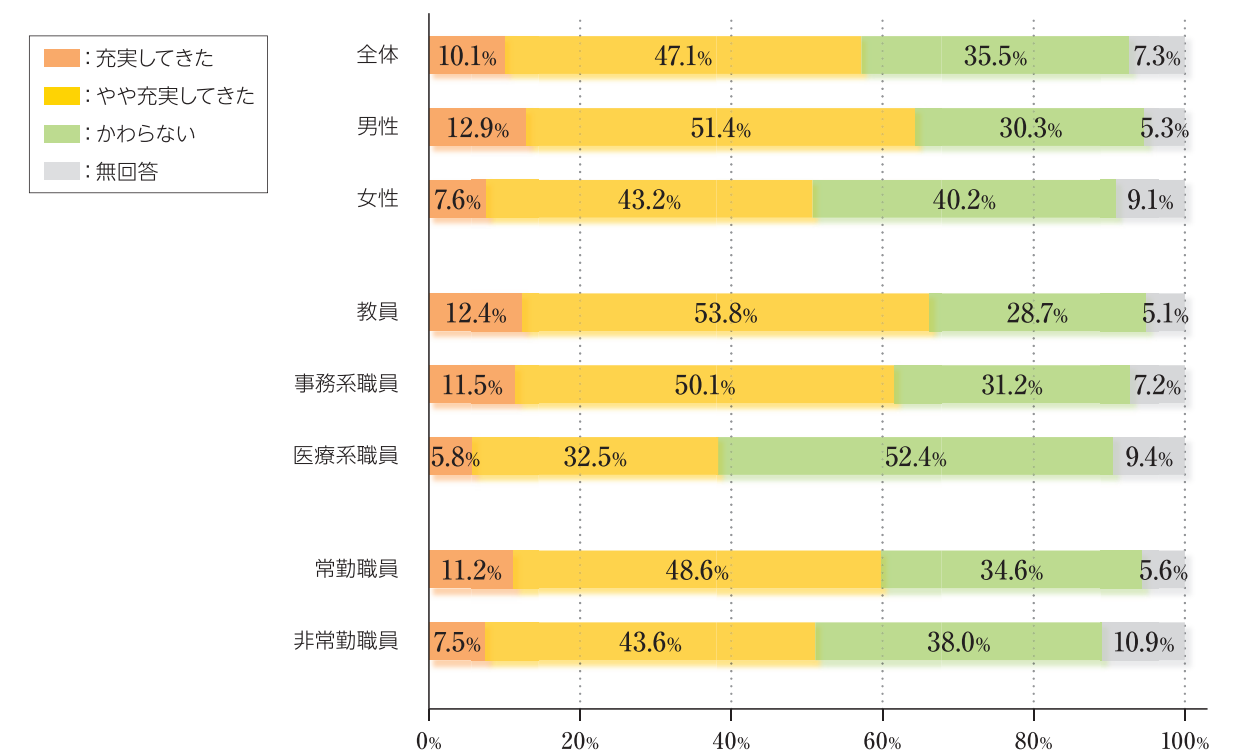
2. 職場環境についての実態

Q.男女共同参画推進活動を始めてから職場環境や意識の変化はありますか。(複数回答)
6割近くが「男女共同参画という言葉聞く機会が増加した」と回答した。



3. 女性教職員への支援の充実について

Q.女性教職員が活躍するための支援は充実してきましたか。
女性教職員への支援の充実度は全体で6割近くが「充実してきた」「やや充実してきた」と回答している。男女別では男性のほうが充実してきたと回答している。また職種別では意識の差が大きい。



4. 育児・介護の支援の取組について

Q.育児・介護の支援として取組んでもらいたいものは何ですか。(複数回答)
1位「育児・介護休業を取得しやすい環境づくり」、2位「夕方18時以降の会議廃止」、3位「代替要員確保の取組」であった。

